

令和 2 年度 県立荃崎高等学校 自己評価表

目指す学校像	◎ 社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。 1 生徒・教職員、共に学び合う学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ①学習指導の工夫・改善により、生徒の基礎学力が向上し、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。 ②基本的な生活習慣が身に付いていない生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになった。 ③生徒の能力・適性等に応じて、四大・短大・専門学校進学から就職まで多様な進路実現に対応している。 ④三部制定時制単位制高等学校の特徴を広く周知したことにより、地域や近隣中学校における本校に対する評価が改善・向上しており、特別な支援を要する生徒に係る引き継ぎについても中学校の理解が進んだ。 ⑤教職員の勤務時間を把握することができた。 <課題> ①基礎的・基本的な学習内容の理解が十分でない生徒が少なくなく、生徒間の学力の差も大きいため、個に応じた指導を充実させ、生徒の学び直しを丁寧に支援する。 ②人間関係を築くのが得意でない生徒が増えており、教育相談機能等の効果的な運用により、豊かな人間関係づくりを支援する。 ③キャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路実現に組織的に対応できるよう、就労支援も含めて体制を整える必要がある。 ④学校公開（授業公開等）や、地域や近隣中学校との交流を推進することにより、本校に対する理解を深め、連携を更に進める。 ⑤基準を超える超過勤務の解消に向けて、校務の精選や業務の割振りの見直しを行う。	1 基礎学力の向上を図る	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 イ 少人数授業、TT授業、ファーストステップ授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し、ICTを必要に応じて活用しながら、生徒の学びの質を向上させる。	A
	2 学びの場としての環境づくりに取り組む	ア 必要に応じてICTが活用できる教室環境を整える。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て、教育相談機能を充実させ、望ましい人間関係を構築しながら、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 特別な支援を必要とするひとりひとりの教育的ニーズに応えられる体制づくりを行う。 エ 図書館の整備に努め、生徒の読書や学習に自主的に取り組むことができる環境を整える。	A
	3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをとおして、服装・頭髪等の身だしなみを正し、挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加や生徒指導上の問題行動による退学者数を減らす。	B
	4 生命や人権を大切にす る態度を育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、生徒相互の豊かな人間関係を築く。 イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。	A
	5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ、進路別見学会を実施し、進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、進路指導の充実を図る。	B
	6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、部活動の充実を図る。 イ HR活動を中心に、学びを振り返るとともに、将来への見通しを持たせる。	A
	7 保護者や地域社会との連携を図り、フレックス スクールとしての基盤固 めを行う	ア H Pや印刷物等により、フレックススクールの教育活動内容を積極的に発信する。 イ 中学校訪問や学校説明会等広報の拡大を図り、保護者や地域社会との連携を推進する。	A
	8 教職員の資質能力の向 上を図る	ア 校内研修を充実させるとともに、校外の研修に積極的に参加し、教職員としてのスキルアップを図る。	B

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題			
教科指導	国語	充実した授業を展開する。	学習意欲の向上を図るため、生徒の学力の実態に応じた指導内容や指導方法を工夫する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> TTの質を高めるなど、授業を基本にした指導力の向上を目指す。 			
			落ち着いた学習環境を整えるとともに、学習状況が十分でない生徒をサポートするため、TT授業を効果的に取り入れ、年次目標に沿った学力の向上を目指す。コロナの影響による授業の遅れを少しずつ挽回する。	A					
			基礎学力の向上を図る。	漢字検定などの資格取得を奨励し、基本的な学習習慣を継続させるよう努める。			A		
			ファーストステップの授業を通し、集中して学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を育むために必要な基礎的な学力を身に付けさせる。	A					
		地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	身近な社会的事象などをとりあげ興味を持たせる。基礎・基本な事項は繰り返し学習する時間を設け知識の定着をはかる。			A	A	<ul style="list-style-type: none"> iPadを授業の中で効果的に活用できるようにする。 教員間で積極的に教材を共有する。 自宅学習やテレワークに対応したICT活用に取り組む。
				休み時間や放課後に、生徒からの質問の時間を設ける。			B		
	分かりやすい授業を展開し、学習意欲の向上を図る。		自作教材やマルチメディア教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	A					
		評価法の改善などを通して、生徒の良い点を伸張する工夫に努める。	A						
		プリント学習を積極的に導入し、生徒の理解を図る。	A						
	数学	基礎学力の向上を図る。	ファーストステップ(FS)の授業では習熟度別授業を実施し、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱う。	B	A		<ul style="list-style-type: none"> 数学を体系的に理解できるよう、指導方法等を工夫する。 FSでは、ワークだけでなく、進度に沿ったプリントも課すように工夫する。 計算力不足や学力層の乖離が見られるため、指導方法等を工夫する。 		
			生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	興味・関心を高めるような学習内容や教材を工夫する。				A	
			関心の高い生徒に対し、個別指導や課題等により、更なる意欲の向上に努める。	A					
理科	基礎学力の向上を図る。	ティームティーチング指導をとおして、個に応じたきめ細やかな指導を行い、生徒の理解力を向上させる。特に数値処理の力を伸ばす。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応として、模擬実験や演示実験の教材を開発するとともに、実験環境の整備を図る。 生徒の学習意欲を向上させる学習方法を工夫する。 生徒の理解度に合わせた演習、課題内容を厳選する。 				
		中学理科の内容との関連を意識させ、系統的な知識が身につくような授業を展開する。	B						
	生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫することで学習意欲の向上を図る。	A						
		日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れ、その際に視聴覚教材やICTなどを効果的に活用する。	B						
		観察・実験を積極的に授業に取り入れることで学習内容への興味・関心を高める。	B						

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式2 (高)

評価項目			具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科指導	保健体育	体育	運動量を確保するとともに、生涯を通じて取り組むことができるスポーツを見つけさせる。	クラスの実態に応じた運動種目やルールを選定し、生徒が意欲的に運動に取り組めるような環境作りに努める。生徒が自ら動き、学ぶことの楽しさや達成感を覚えるよう、運動量を確保していく。	A	A	・生徒人数が少人数となる夜間部の体育について、授業構成等を工夫する。	
			体育着着用の指導の徹底を図る。	体育着を着用して参加する生徒の意欲をしっかりと評価し、全員が楽しく授業に取り組めるよう、根気強く指導を行う。	A			
		保健	正しい意志決定・行動選択ができる能力を身に付けさせる。	社会で起こっている具体的な事例をあげながら学習指導を行う。また、実技・実習等を行い、実践的な能力を高める。	B			A
			学ぶ姿勢を身に付けさせる。	望ましい授業態度が身に付くよう根気強く指導するとともに課題の提出を徹底させる。	A			
	芸術	音楽	芸術を愛好する心情を育てる。	芸術的な活動を通して感性を高め、実生活においても芸術を鑑賞する心情を育成する。自主的に芸術を楽しむ態度を育てる。	A	A	・コロナ禍のため実技(特に歌唱)が思うようにできないため、この状態であっても充実した課題に取り組めるように授業を工夫する。(音楽) ・時間配分を生徒にも明示し、見直しをもって制作に取り組むよう指導する。(美術) ・引き続き、服装・準備・片付けの徹底を図る。(書道)	
			基礎技術の確実な定着を図る。	実習においては個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がける。	A			
			個性豊かな表現を伸ばす。	人前で発表する機会を多く取り入れ、芸術性のある創造力・表現力を身に付けさせる。	B			
		美術	美術への興味、関心を高める。	日常と関連を持たせた課題設定と導入を行う。	A	A		
			つくる喜びを味わわせる。	個別指導を通して生徒一人一人が表現したい内容を理解し、個に合わせた技術支援を行う。	B			
			授業を受ける態度を身に付けさせる。	自ら準備・片付けをするよう指導する。また、自主的に芸術を楽しむ態度を育成する。	A			
		書道	小筆、大筆の特徴に合わせた書に取り組ませる。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認させて、創作の意欲を持たせる。	A	A		
			作品を完成させる喜びを味わわせる。	文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを目指す。	A			
			授業を受ける態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。	A			
	英語	基礎学力の向上を図る。	「コミュニケーション英語Ⅰ」や「基礎から学ぶ英語」の授業等を通して、中学英語の内容と結びつけながら基礎的・基本的な「読むこと」「書くこと」の能力の向上を図る。	A	A	・音声面を重視した授業の展開を継続し、指導方法の更なる充実を目指す。 ・4技能に関しては、特に「書くこと」「話すこと」の能力の向上を図る。 ・自己表現活動を取り入れるようにしていくことで学んだことを実践する場面を増やす。		
			ファーストステップの授業を通して、基礎的・基本的な日常生活に結びつく単語の読み書きの能力の向上を図る。	A				
観点別評価の工夫を通して、評価と一体化した指導を行い、基礎学力の向上を図る。			B					
音声面に重きを置いた、バランスの取れた4技能の向上を目指す指導をする。		教科書の英文音読練習を通して、強勢、文におけるイントネーションや区切りなどの音声的な特徴に気付くことができるように指導をする。	A					
		ALTと連携のとれたティームティーチング授業で生きた英語に直接触れさせ、「聞くこと」「話すこと(発表、やり取り)」の能力の向上を図る。	A					
		教科書に出てくる文法や重要な表現を、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をする。	B					
家庭	学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終了時の挨拶を徹底させる。学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。	B	B	・個人のスキルの差が大きく、同じ進度では難しいため、進度調節ができる課題を検討する。			
	協調性を持ち、基礎学力を身に付けさせる。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組ませる。	B					

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	情報	パソコン操作技術の向上を図る。	Word や Excel の基本操作を習得させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PC 検定等を受験する生徒に対する指導を工夫する。 ・情報モラルの指導を徹底する。 ・自ら考えたテーマ等を表現できるような教材を開発する。 ・実社会で求められるコンピュータ・リテラシーの育成を図る。 ・生徒が興味・関心を持つことができる授業を工夫する。
			PowerPoint の基本操作を習得させる。	A		
	情報社会について学び、情報モラルの向上を図る。	携帯電話やスマートフォンなど身近な情報機器を教材として取り上げ、情報化が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルが身に付く授業を展開する。	B			
	総合	社会生活や職業生活に必要な基本的能力や態度と望ましい勤労観・職業観を育成する。	準教科書「産業社会と人間」を活用することにより、自己理解を深めつつ進路について多面的に考え、職業人として社会に貢献するために必要となる基礎知識や態度を身に着けさせる。	B	A	
	自己理解を深めさせる。	青年期の心理について知識を得るとともに、コミュニケーション能力向上を図る方法を体験的に学ぶことにより、自己の在り方・生き方について深く考えさせる。	A			
	日本や中国の文化について理解を深めさせる。	日本の伝統芸能や郷土の文化に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付けさせる。	A			
教科指導(専門)	商業	ビジネス教育の充実を図る。	経済を理解し、ビジネスに活かそうとする能力を育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス経済検定の周知を図る。
		経済学について理解させる。	ミクロ経済、マクロ経済を対比させ、市場のあり方について考え、経済活動の実際を学ばせる。	A		
		簿記会計能力の基礎力充実を図る。	簿記の基礎基本を理解させ、商業計算能力の向上を目指す。会計書類を活用できるようにする。	B		
	家庭	衣食・保育への興味・関心を高める。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートを通して、食に対する興味・関心を持てるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識技能がより定着するように、日常ですぐ使える実技等の指導を工夫する。
			日常生活で関わる衣生活を自ら管理できるようにする。将来の保育環境を自ら適切に考えられるようにする。	A		
		実習に望む態度を身に付けさせる。	きちんとした服装を整え、自ら準備、片付けの徹底を指導する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図りながら、社会を生き抜く力を育成する。	基礎学力向上のための教育課程編成を研究し、個に応じた指導(ファーストステップ、少人数、TT、ICT活用等)の実践による、指導方法を開発する。	A	A	・特別な配慮を要する生徒の他、学習習熟度や意欲の高い生徒を含め多様な生徒への対応等を工夫する。
		授業公開の場を設け、特別な配慮を要する生徒を含めた多様な生徒に対応し、生徒の学習行動を引き出す授業方法を検討する。	B		
	フレックススクールの広報活動の充実を図る。	学校案内やホームページに工夫改善を加えとともに、学校説明会を通してフレックススクールとしての本校の役割について広報活動を行う。	A		
	フレックススクールとしての教育活動の充実を図る。	3部制単位制普通科高校として教育活動の充実・発展が図れるよう、次期学習指導要領に沿った教育課程の運用方法、学校行事の運営方法等について見直しを行う。	A		
進路指導	生徒一人一人の希望と適性の理解と把握に努める。	進路希望調査・適性検査等を行い、早期かつ継続的に個々の適性を把握し、進路希望の熟成に努める。	A	B	・社会情勢上、ガイダンス実施の制約、インターンシップの自粛、教員の会社訪問の自粛、各種関係機関による説明会の中止が重なり、今年度の進路指導は不十分だったと言わざるを得ない。 ・来年度は最悪の事態を考慮しながら、情勢を鑑みつつ、早期からの進路指導の展開に注力したい。
		継続的にキャリアカウンセリングを実施し、生徒理解を深めるとともに進路意識と理解の向上を図る。	A		
	望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、ガイダンスや進路講演会等を実施することで社会情勢を理解させ、もって望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	B		
		職業体験を推奨し、様々な職種への理解を深めるとともに社会人として相応しい資質を育む。	D		
	進路情報の提供と進路開拓を図る。	入手した進路情報を各年次と共有し、個々の生徒の進路希望に応じた適切な情報提供を行う。	A		
		生徒の個性に応じた就職・進学先を確保するため、教員による訪問見学・説明会出席を積極的に行う。	D		
	生徒の個性・適性・希望等を把握し、個に応じた指導の充実を図る。	各年次と連携を密にし、個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を実践し、その実現を目指す。	A		
		進路ガイダンスや進路見学会をとおり、多様な生徒の進路希望に合わせた意識付けを図る。	B		
	就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。	B		
		2年次での職業体験をとおして、個々の特性と職場での適合を図る一助とする。	D		
生徒指導	生徒指導体制の一層の充実を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。	いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図る措置を講じ、関係機関との連携を図りながら適切に対応する。	A	A	・個に応じた生徒指導、特別指導を工夫する。 ・年次や校務分掌、外部関係機関との連携を強化し、組織として生徒に対応する。
		服装頭髪指導・交通安全指導の強化期間を設定し、意識づけを強化する。	A		
		各年次と連携して登校指導・校内外巡回を行い、生徒の状況を観察し、声かけ指導を継続する。	A		
	生徒指導に関する教員間の共通理解を深める。	定期的に生徒指導部会を実施し、情報を共有する。	A		
		生徒指導相談員の助言を有効活用して、日常の指導に生かす。	B		
		校内研修会を通して生徒指導に関する共通理解を深め、公正・公平な指導を行うとともに、個に応じた特別指導の内容や方法を工夫する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒が積極的、主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会本部役員の月1回以上の定例会を実施し、課題克服の具体策を話し合う。また、公開定例会を定期的に持ち、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスに対応した行事の遂行の仕方、活動が制限される場合の対応等を工夫する。 フレックス制に適した特別活動の在り方について、検討する。
	生徒会が中心になり部活動や委員会活動、HR活動の活性化を図る。	生徒会が中心になって部活動や委員会活動、HR活動と連携することで、生徒一人一人が学校の役割を担えるようにする。	A		
	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会参画及び自己実現に繋がるような行事を企画、運営する。	HR活動を中心としてキャリア・パスポートを活用し、教科学習、教科外活動、学校外の活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や見通しを持たせる。	B		
		各行事での反省を生かして各部の生徒が偏りなく活動できるようにし、フレックス制に合った実施方法を検討していく。	A		
保健厚生	心身の健康の保持増進を図る。	各種検診を必ず受診するよう呼びかけ、自分の健康を意識させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を強化する。 登校前の健康観察や学校での過ごし方について、生徒が自ら実行できるように促す。 特別支援コーディネーターと通級担当との役割分担を整理する。 通級履修はしないが、支援が必要と考えられる生徒への適切な関わり方を検討する。 健康診断が確実に実施できるよう準備をすすめる。
		生徒が安心・快適に学校生活がおくれるように、救急処置・救急体制に万全を期す。	A		
		教育相談・健康相談の充実に努めるとともに、必要のあるケースには、関係専門機関との連携を適切に図る。	A		
		感染症対策を実施し、感染防止に努める。	A		
	生きる力を伸ばす保健教育を推進する。	薬物乱用防止講話や性教育講演会を実施し、生徒の問題行動の未然防止に努める。	A		
		ライフスキル教育を取り入れ、生徒の問題解決能力を高める保健学習の機会を設ける。	B		
		保健室に配置する図書・資料・掲示物の充実に努め、生徒が健康・安全の意識を高めるために役立てる。	A		
	学習環境を整備する。	学校安全の確保に努め、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応する。	B		
		ゴミの散らかし防止を呼びかけるとともに、分別処理を徹底させる。	A		
		快適な学習環境を維持するため、生徒職員一体となって清掃活動に取り組む。	A		
	個別支援の充実に努める。	学校内における情報の引き継ぎを行い、校内支援体制を充実させる。	B		
		特別支援教育巡回相談や校内研修会を実施し、支援の方法を学ぶ機会を増やす。	B		
スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図る。		A			
通級指導の体制を構築する。	特別支援教育コーディネーターと協力し、これまでの生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。	C			
	産業社会と人間、心理学、HRなどの関連をもたせた多角的な指導内容を検討する。	C			
渉外	PTA諸活動に対する保護者の参加率の向上を図る。	文化祭、研修会等の機会を通じて保護者間及び教職員と保護者との間の親睦を深める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員の選出が難しくなりつつあり、継続的なPTA活動の在り方を検討する。
		PTA総会、合格者説明会時に、PTA活動への参加協力を呼びかける。	A		
		本部役員と協議して、評議員会や各委員会の運営の円滑化を図る。	B		
	委員会活動の活性化を図る。	広報委員会では、保護者の意見をできるだけ取り入れて運営する。	B		
		生徒指導委員会では、さわやかマナーアップキャンペーンとして一声運動を実施する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
図書	図書館の利用促進を図る。	生徒アンケートを把握し、選書を行い、利用促進を図る。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を対象とする読み聞かせ会を継続する。 蔵書管理システム「エッグ」の使い方に関する研修を行い、図書館の円滑な運用を図る。 生徒の居場所としての図書館づくりを工夫する。
	良書の充実と読解力の向上を図る。	推薦図書や人気の本、雑誌を揃え、気軽に図書室を利用できるような本を選定する。 ビブリオバトル大会や朗読大会に参加するように指導する。	B C		
	図書館の整備に努める。	読書がしやすく、居心地の良い、図書館整備に努める。	B		
情報部	校務用 PC の保守管理に努める。	定期的な OS のアップデートを実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に備え、分散登校や休校に対応できるように ICT 機器の整備、利用方法を研究する。 生徒一人1台端末の整備に対応し、学びの多様化を支援する。 教員間のセキュリティ意識の向上を図る。 教職員全員が、タブレットを使用できる環境整備を行う。
		適切な時期に機器の更新を行う。	A		
		業務に支障のないよう、ソフト・ハード面でのトラブルに対応する。	A		
		適切な利用法についての助言を行う。	B		
	教育用 PC の保守管理に努める。	教室での教育用情報機器の整備を図る。	A		
		情報機器を活用した教育活動の方法について研究を行う。	A		
		必要な機器の導入・整備を図る。	A		
	iPad 機器の保守管理に努める。	保有する iPad 機器の定期的な保守・点検を行う。	B		
		必要なソフトウェアの導入・利用を図る。	B		
		ネットワーク環境の保守点検を行う。	A		
		定期的な OS のアップデートに努める。	A		
	校内ネットワーク環境の保守管理に努める。	導入済み無線 LAN 機器の保守点検を行う。	A		
		定期的なソフトウェアのアップデートを行う。	A		
学内有線ネットワーク機器の保守点検を行う。		A			
必要な機器の更新を行う。		A			

※ 評価基準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
一年次	基本的な生活習慣の確立を図る。	登校指導時の声掛け、休み時間の観察、生徒面談などをとおして状況把握及び生徒理解に努める。	A	A	・進路を意識させ、生徒が授業や校外活動に意欲的に取り組み、より高いレベルの目標を設定しながら、それを達成できるような力を育成する。
		家庭との連携を密にし、年次集会などで組織的に服装・頭髪指導を行うことで、規範意識を高める。	A		
		教室・廊下の美化に努め、生徒の学習環境を整える。	A		
		指導重点項目を設定するなど、年次全体の意志を統一して教科担任を含めて一貫した指導を行う。	B		
	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	A		
		ファーストステップ授業などで学び直しの機会を設け、学習意欲の向上を図る。	A		
二年次	基本的な生活習慣を定着させる。	登校指導時の声掛け、休み時間の観察、生徒面談などをとおして状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	A	A	・総合的探究の時間やHRにおいて、希望進路別に、それぞれに必要な資格取得等に向けたきめ細やかな指導を充実させるなど、生徒の進路指導の充実を図る。 ・年次全体で情報共有・連絡を密にして指導を行う。
		家庭との連携を密にし、年次集会などで組織的に服装・頭髪指導を行うことで、規範意識を高める。	A		
		指導重点項目を設定するなど、年次全体の意識を統一するとともに連携を密にし、一貫した指導を行う。	A		
	学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てる。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	B		
		総合的探究の時間やHR、NIE教育、論理言語力検定を通して、生徒の学力向上と社会性を育み、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てる。	A		
三年次	社会生活に必要な素養を身に付けさせる。	時間厳守等の基本的な生活習慣を定着させ、礼儀作法を身に付けられるよう指導する。	B	A	・生徒が進路活動や日々の諸活動に主体的に取り組むような意識づけを図る。 ・進学や就職に向けて、ICT機器の活用能力の向上を図る。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・「4年で卒業する」という内発的動機づけを行う。
		結果目標を設定し、達成するための手段、方法を生徒自ら考えられるよう、年次全体で支援する。	A		
		困り感が生じたときに、生徒自らが年次の教員に相談できるような雰囲気づくりに努める。	A		
	総合的な学習の時間・HR活動を通して、進路実現に必要な考え方を身に付けさせる。	目標とする理想的な社会人の姿と、現在の自分との差分について内省させる時間を設け、その活動支援する。	A		
		情報活用能力やコミュニケーションツールの使い方を身に付けさせ、他者との協同作業をともなう課題解決能力を身に付けさせる。	B		
四年次	基礎的・基本的学力の定着を図る。	生徒の実態に応じ、社会を生き抜くために必要な基礎的・基本的学力の育成を図る。	A	A	【次期4年次に向けて】 ・進路指導部や3年次との連携をより密に行う。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせる。
	個に応じた進路希望を実現させる。	担任を中心に個人面談を継続的に行い、生徒の能力・適性に応じた進路決定を支援する。	A		
		進路指導部と連携し、進路決定を支援する。	A		
	社会人として必要な基本的な生活習慣を確立させる。	HRや授業等をおして、社会人として社会生活を送るために必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、社会の一員としての自覚を醸成する。	B		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である